

第62回横浜市地域まちづくり推進委員会会議録	
日 時	令和7年9月2日（火）15時00分から17時00分まで
開催場所	市庁舎18階会議室なみき6・7・8
出席者	<p>【委 員】名和田委員長、三輪副委員長、内海委員（WEB）、片岡委員、佐藤委員、高村委員（WEB）、宮谷委員</p> <p>【臨時幹事】神奈川区 小林副区長、神奈川土木事務所 山下所長</p> <p>【事務局】古檜山部長、光田課長、中尾担当課長、大嶽担当係長</p> <p>【防災まちづくり推進課】杉本課長、瓦谷係長、櫛座</p>
欠席者	川原委員
開催形態	公開（傍聴0名）
議 事	<p>地域まちづくり組織及びプランの認定について</p> <p>組織：北町ぼうさいアクション</p> <p>プラン：六角橋北町防災まちづくりプラン</p>
報 告	まち普請部会、表彰部会の状況報告
決定事項	<p>北町ぼうさいアクション認定</p> <p>六角橋北町防災まちづくりプラン認定</p>
<p><b>【議事】地域まちづくり組織及びプランの認定について</b>            (地域)</p> <p>北町ぼうさいアクション（地域まちづくり組織）及び六角橋北町防災まちづくりプラン（地域まちづくりプラン）について説明。</p> <p>(防災まちづくり推進課)            地域まちづくり組織および地域まちづくりプランの認定基準への適合について説明。</p> <p>(名和田委員長)            区から意見等あればお願いしたい。</p> <p>(小林副区長)            六角橋北町地区の活動について話を聞く中で、防災意識の高さを改めて実感した。区としても、地形の高低差、住宅の密集、狭隘な道路など、防災上の課題が多い地域であると認識している。            これまで同地区では、当グループを中心に様々な防災活動が展開されており、多くの住民が関わりやすい工夫がなされている点が印象的であった。防災を身近に感じられる企画など、地域住民の創意工夫が随所に見られる。            今回のプランは、地域内での議論を重ねて策定されたものであり、「災害に強いまちづくり」への強い意志が込められていると受け止めている。神奈川区は重点対策地区として広い面積を有しており、区としても防災対策に優先的に取り組む必要がある。六角橋北町地区の住民が主体的に取り組んでいることは非常に心強く、区としても今後、しっかりと支援していく所存である。</p> <p>(山下所長)            六角橋北町は住宅密集地であり、狭隘道路や高低差、行き止まりなど、ハード面での課題が多い地域である。こうした状況の中でも、一時避難場所の確保、ブロック塀の撤去や狭い道路整備に向けた働きかけなど、可能なことから着実に取り組もうとされており、非常に素晴らしいと感じている。            六角橋六丁目公園の防災型公園としての活用も期待されており、防災意識の向上につながることを願っている。土木事務所としても、すでに相談を受けている内容を含め、対応可能な点についてはしっかりと支援していく方針である。            課題は多いものの、こうした前向きな取り組みが今後も継続されることを期待している。</p> <p>(名和田委員長)            それでは当該認定に対して審議を行い、結論を出したいと思う。委員から意見や質疑、助言等があればお願いしたい。</p>	

(佐藤委員)

地域まちづくりプランの範囲内には小・中学校も含まれているが、災害時の避難場所としての活用や、避難後の対応方針についての記載が少ないように感じられる。学校との連携や、防災グッズの活用を含めた避難後の生活支援について、どのように検討されているのか伺いたい。現時点での考えをお聞かせ願いたい。

(地域)

北町エリアには神橋小学校および六角橋中学校が所在し、いずれも地域防災拠点に指定されている。現在、私は神橋小学校の防災拠点運営委員長を務めており、六角橋中学校にも北町から5名の委員が参加している。ただし、今回のプランについては、学校側との具体的な意見交換はまだ実施されていない。教育現場としての立場もあるため、調整が難しい面もあるが、今後は校長との連携を図り、防災教育の充実に努めていきたいと考えている。特に、子どもたちの防災意識の向上を重視し、積極的に取り組んでいく方針である。

(宮谷委員)

地域で防災に取り組むことは、多くの地域が共通して抱える課題であり、今回のように具体的なプランや組織づくりまで進められている点は非常に優れていると評価している。その上で、3点伺いたい。

- ・地域まちづくり組織、プランという形を取った理由や、そのきっかけは何であるか。
- ・計画がスピード感を持って進んでいる印象を受けるが、その要因は何であるか。
- ・今後の具体的な取り組みにあたって、現時点で感じている課題や懸念点があれば教えていただきたい。

(地域)

地域まちづくり組織を選択した理由は、従来の自治会のみでは対応しきれない地域課題に幅広く対応できる点、ならびに補助金・助成金の活用が可能である点が大きな要因である。

計画がスピード感を持って進められている背景には、災害への危機感と「今やらなければならない」という地域全体の強い意識がある。毎月の会合には多くの住民が積極的に参加しており、地域の主体性が高まっていることがうかがえる。

現在の課題としては、自治会以外の住民、特にマンションやアパートの住民への理解と参加の促進が挙げられる。管理会社や所有者への働きかけを通じて、少しずつ関係構築を進めており、今後も粘り強く取り組んでいく考えである。

(高村委員)

地域防災組織「北町ぼうさいアクション」の名称が親しみやすく、参加のハードルを下げる点で非常に良いと感じた。自治会以外の住民や、地域に関わる多様な人々（地主、ワンルーム住民、通勤者など）を巻き込む取り組みにも共感しており、地域への愛着や関心を高める工夫が重要だと考える。

また、スタンドパイプの使い方をまち歩きイベントで紹介した事例は非常に有意義であり、今後も防災知識を学べる機会があると嬉しい。

(内海委員)

横浜市地域まちづくり推進委員会への参加は今回が初めてであるが、条例制定時には検討委員を務めた経験があり、今回の発表を感慨深く拝聴した。

六角橋北町防災まちづくりプランおよび北町防災アクションの認定については、手続きの正確さや地域の対応力の高さから、認定すべきであると考える。地域の意見を丁寧に取り入れている点も非常に評価できる。今後の発展に向けて、2点伺いたい。

地縁型の活動組織は高齢化が進み、持続可能性が課題となっているが、現在の構成員の年齢層はどうなっているか。

組織の持続可能性を高めるために、どのような取り組みを考えているか。

(地域)

現在の構成員は、30代が1名、40代が2名、その他は主に70代以上で構成されており、50～60代が少数参加している。

若い世代の参加促進に向けては、地域のボランティア団体との連携や、ハロウィンなどのイベントを通

じて関わりを広げている。来週開催予定の神社の祭礼においても、若年層へのPRを行う予定であり、世代を超えた参加の促進を図っていく考えである。

(内海委員)

自治会のみならず、幅広い層を巻き込んだ防災活動は、防災面にとどまらず、持続可能性の観点からも非常に意義深いものであると感じた。イベント等を通じて参加の裾野を広げる取り組みは、全国的な課題である高齢化による活動の停滞に対して、有益な示唆を与えるものである。今後の展開に期待する。

(片岡委員)

活動・プランともに非常に優れており、柔軟かつ活発な取り組みに感銘を受けている。

今後の持続性の観点からは、特に活動が活発になるほど資金面の課題が顕在化すると考えられる。現時点での活動資金に対する考え方や、今後の財源確保の方針について伺いたい。

また、防災まちづくりや地域福祉保健計画など、行政との連携によって可能となる取り組みについて、どのような展望を描いているのかをお聞きしたい。

(地域)

自治会費は自治会員が負担しているため、その資金を用いて自治会外の住民のための活動を行う場合、自治会員に不公平感が生じる可能性がある。そのため、地主やマンション所有者などから寄付を募るなど、広く資金を集める仕組みが必要であると考えている。行政側において、自治会外の住民分の支援があると非常に助かるが、現時点では具体的な対応は未定である。

(杉本課長)

地域福祉保健計画とは現時点では直接の連携を考えていないが、横浜市では今年度、地震防災戦略の見直しを行い、地域に根ざした防災の取り組みを強化している。

北町ぼうさいアクションについても、避難場所としての公園の活用や道路の拡幅など、地域のプランに基づいた具体的な整備に向けて、土木事務所と連携しながら積極的に支援していく方針である。

(三輪副委員長)

認定およびプランについては、地域の意思が十分に反映されており、問題なく進めさせていただきたい。

アンケート結果には一部反対意見も見られたが、「コレも防災！」という観点は、日常の関係づくりや福祉的な視点を含めて、より広げていくべきである。挨拶や「ゴミ端会議」などの取り組みは、地域のつながりを生む重要な一歩であり、防災の基盤となる。

防災活動の入り口は福祉的な関係づくりである可能性が高く、町内会に属していない住民や事業者、保育園・幼稚園などとの連携を通じて、幅広い層を巻き込む工夫が必要である。特に子育て世代や若年層へのアプローチとして、サロンや地域の子育て支援団体との連携が有効である。

また、大学生の消防団参加など、地域の多様なステークホルダーとの関係づくりも重要である。区役所を通じて大学との連携を図ることで、地域活動への参加促進が期待される。小学校・中学校との連携も視野に入れ、保護者や生徒を巻き込んだ主体的な防災活動の展開が望まれる。中学生は担い手としての可能性もあり、イベント参加だけでなく、企画段階から関わる仕組みづくりが求められる。

(名和田委員長)

組織およびプランについて認定することに意義はないか。

(委員全員)

異議なし

**【報告】まち普請部会、表彰部会の状況報告**

(事務局)

- ・令和7年度ヨコハマ市民まち普請事業の一次コンテストの実施状況と選考結果等について説明。
- ・第12回横浜・人・まち・デザイン賞のスケジュールや表彰部会の状況等について説明。

(片岡委員) 表彰部会に関する補足

7月の部会では、選定方法の見直しや交流会の開催について議論が行われた。一次選考を書類審査のみ

で実施する案に対し、委員会としては実際に議論を経て決定すべきとの意見が出された。

その結果、10月に選考のための部会を追加開催することとなり、委員の作業量は増加するものの、丁寧な審査を行う方針で進めることとなった。

以上